

---

# アルス国際製靴学校研修体験記

(平成27年8月25日～11月21日)

株式会社アポロ 三浦 実希子  
プロトシューデザイン株式会社 満谷 亨

---

## 1 研修課題

- (1) パターンメイキングの理解  
(アッパー、ライニング)
- (2) 靴の構造および製法に関する知識の習得
- (3) プロトタイプ作成 (卒業制作)
- (4) 企業訪問・展示会視察
- (5) 卒業試験 (実技、筆記、面接)

休講

## 2 研修内容

- (1) スケジュール
  - ① 研修スケジュール  
パターンメイキングコース  
期間：8月25日(火)～11月21日(土)  
全13週  
第1週：講義(靴の構造、製法)  
第2週～9週：実技(パターン製作)、  
講義  
第10週：プロトタイプパターン作成  
第11週～第12週：プロトタイプ作成  
第13週：卒業試験・コンペ表彰式・卒業式
  - ② 週間スケジュール  
・月曜日～金曜日  
9：00～17：00  
(13：00～14：00昼休み)  
(最終戸締り20：30まで自習可)  
毎週月曜日にMONDAY TESTが行われる。  
(先週の授業内容から出題)  
・土曜日、日曜日、祝日

## (2) 授業内容

- ① パターン実習
  - ・パターンメイキング方法  
デザインタイプ毎に異なるアルス式パターンの作成手法を学び、基本のシステム・ルールに従いパターンを作成する。  
ダービー、オックスフォード、パンプス、サンダル、ブーツ、ローファー等の一般的な靴のデザインを作成。その後、ブーツ、モカシン、左右非対称、トレーニングシューズ等のより複雑な靴のパターンについて作成。
  - ・パターンの作成手順  
BASE作成→ペーパーパートライアル作成の反復練習  
(BASE→UPPER BASE→ペーパーパートライアル→LINING BASE→LININGペーパーパートライアル)
  - ・実習の進め方  
生徒は講師の周りに集まり、講師が説明しながらパターン作成を実演。その後、各自がパターンを作成し、都度先生にチェックしてもらう。  
週末に1つのデザインに関してUPPERとLININGの裁断型等の実用を想定したパターンを作成、表紙に

仕様を記載した封筒に入れて提出する。



写真1 ペーパートライアルの様子



写真2 パターン実習中の様子



写真3 作成したペーパートライアル

## ② 講義

講師はスライドやビデオ等を使用し説明する。

第1週目に靴の基本に関する講義を受講。

- ・靴の構造および製法に関して  
靴の種類、部位・材料名称

製法、製造工程

足と木型の関係

各国の靴工場事情、生産状況

第2週目以降は、パターン実習の合間に2時間程度の講義を受講。いくつかのグループに分かれてのグループディスカッションも実施された。

- ・革について

革の特徴や見分け方、どのようなデザインに適しているか等

- ・木型について

木型のサイズ測定方法および木型の形状にあったデザインの選定方法

- ・サイズ換算方法

センチメートルとインチ（仏式、英式、米式）のサイズ換算方法

- ・アッパーエッジの処理方法

折り込みやパイピングといったエッジ処理の方法とその特徴

- ・パターン作成における基本システム・ルール

デザイン毎に異なるクセとり等の基本ポイントの算出方法等

- ・生産について

デザイン製作から出荷まで生産時の流れ、革の歩留まり、デシ計算等

各講義で使用されるスライド等のデータは申し出れば受領することが可能。



写真4 講義の様子

### ③ プロトタイプ作成（卒業制作）

#### ・製作

木型、底材、ヒールを自由に選び、自らのデザインでプロトタイプを作成する。パターン作成、手裁断までを各自で行い、製甲・底付けは職人と打ち合わせながら実施。製甲・底付け作業自体は職人が行う。（製作する靴は片足のみ）

#### ・フィッティングテスト

各自が作った靴をモデルの方に実際に履いてもらう。履き心地やデザインに関して講師や他の生徒とディスカッションし、今後の参考とする。



写真5 プロトタイプ製甲・底付の様子



写真6 フィッティングテストの様子

### ④ 企業訪問・展示会視察

#### ・MICAM

（靴見本市）

#### ・LINEAPELLE

（革資材見本市）

#### ・靴メーカ工場見学

（CESARE MARTINOLI）

#### ・タンナー工場見学

（CONCERIA GAIERA GIOVANNI）

#### ・木型工場見学

（Formiticio Romagnolo）

#### ・靴資材、染色工場見学

（KENDA FARBEN）



写真7 タンナー工場の様子

### ⑤ メーカー主催のコンペティション

Gea Gomma社のラバーソールに合う靴（紳士、婦人、子供靴のいずれか）のデザインを各自作成し提出。選考されたデザインについては実際に靴にされ、最終審査によりグランプリを決定する。

### ⑥ 卒業試験

最終週に実施される。試験内容は実技、筆記、グループ面接。

#### ・実技

紳士靴か婦人靴を選択し、くじ引きにより決定するデザイン画についてパターンを作成。ペーパーライアルまで行い、講師にチェックしてもらう。

#### ・筆記

パターン作成の基本システム・ルールについて。イギリスサイズ、アメリカサイズ、フランスサイズの換算方法、靴種の判別など。

・面接

講師3名、生徒3名による面接。

作成したパターン、筆記試験、プロトタイプおよび講義の内容についての質疑応答。

授業は基本的に英語で進められイタリア語で一部フォローするという形式で進行。スペイン語や、中国語を話せる講師がおり、個別にこれらの言語で質問をする生徒も。

### 3 研修成果

海外派遣研修として3か月、イタリア、ミラノにあるアルス国際製靴学校のパターンメイキングコースを受講し、靴に関する一般的な知識とパターンに関する技術の研修を受けました。

クラスメートは25名。様々な国、年代の生徒たちとともに学び生活することができ貴重な体験となりました。生徒たち一人ひとりの生まれや価値観の違いといったものがデザインや靴づくりにおいても個性となって表れているようで、とても刺激になりました。



写真8 講師とクラスメート

アルスのパターンの考え方はとても分かりやすく、基本のシステム・ルールを理解することでパターンが作れるようになるというものでした。

講師の方々はわからないところを聞くと丁寧に教えてくださり、要求すれば次から次へとデザイン画を出してくれるので多くの実践を積むことができました。

今回初めてパターンを作る生徒でも反復練習をすることにより、プロトタイプ作成時には自分でパターンを作れるようになっていました。基本のクラシックなデザインのラインから、線の引き方により靴のイメージが変わる様子など、デザインに関しても学ぶことができました。



写真9 滞在した部屋の様子

最終課題として実際にプロトタイプを作成する際にイタリアの靴づくりを間近で見ることができ、一足一足を非常に丁寧に作っていることがわかりました。

学校と宿舎は同じ建物であり、静かな住宅地にありました。近所にはスーパー等のお店がいくつもあり、またミラノ市内は英語を話せる方も多かったので、生活の面で不自由することは特にありませんでした。

休日の過ごし方は、宿舎から地下鉄やトラム（路面電車）を利用してミラノの中心

地を訪れたり、イタリア国内外の他の都市へ電車や飛行機で訪れ、その土地の文化や芸術に触れることができました。

今後について

三浦：まずは研修で学んで来たことを現状の現場で行かせるよう模索しながら実践することで、靴作りにおいて少しでも良い作業工程、環境を作れるように努力したいです。

その結果、良い商品を提供できるよう、また微力ながら日本の靴業界への貢献になればと考えます。

満谷：今回の研修で学んで来たパターンの技術や製法と自社の既存の技術とを比較し、それぞれの良いところを活用していきたいです。

それによりお客様がイメージする靴を作れるように努めていきたいと思っています。

そういった自社の企画力を上げることで微力ではありますが靴業界に貢献したいと考えます。

最後に、この機会を与えてくださった東京都製靴工業協同組合、東京都産業労働局、ARS派遣事業に参加された先輩方の皆様に深く感謝申し上げます。